

社会科学研究科 基礎法学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	極めて少人数のため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文・博士論文といった成果で間接的に評価されるべきものと考えられる。
	研究会・講演会・セミナー等	スタッフ・院生が全員が参加する「基礎法学総合演習」を定期的に行っている。2006年度は、修士論文の中間報告の他、新任教員の着任講演を兼ねた研究会を実施した。
	外部評価等	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。さらに2005年度は、法学政治学専攻の設置申請に関連して、内部においてスタッフの教員審査を行い、その上で外部委員による評価を受けた。
今後の予定・展望	第三者評価機関による大学機関別認証評価が義務づけられていることに加え、2007年度から大学院FDの実施が求められることから、総合演習等を中心とした自己点検評価・FD活動のさらなる充実化に向けた検討を行う。なお、認証評価の予算化は当然として、その準備作業にかかる経費等に関しても、予算上の措置が必要である。	

社会科学研究科 法曹養成専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	2004年度設置以降、各年度とも学期ごとに、法科大学院の教育等の改善および充実のためのアンケート調査を、すべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制（オフィスアワーなど）、施設や設備などに対する要望などを尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立っている。また、このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立っている。
	研究会・講演会・セミナー等	①FD会議の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法などについての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、各専門領域ごとのFD会議を適宜開催している。 ②各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、新司法試験、第三者評価などに関して、法科大学院協会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	外部評価等	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、さらに2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。なお、法科大学院認証評価を受けることが法定化されているので、その準備を不断に進めている。
今後の予定・展望	上記のような取り組みを継続するとともに、認証評価に向けた準備を本格化していく。特に、法科大学院認証評価機関による認証評価およびそれに向けた準備には、人的体制を整備する必要があることは、他の大学及び文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員からも指摘されている。したがって、認証評価に向けて、事務体制の整備と予算措置が至急講じなければ、準備作業を円滑に遂行することは極めて困難である。	

都市教養学部 法学系法律学コース・政治学コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	個別の教員が行っている場合がある。平成18年度後期に開講されている専門教育科目を対象に、学生による授業評価を実施する予定である（後述）。
	研究会・講演会・セミナー等	なし
	外部評価等	
今後の予定・展望		平成18年度後期に開講されている専門教育科目を対象に、学生による授業評価アンケートを実施することを決定し、そのための準備作業を進めている。その結果に加え、専門職大学院の設置、公務員試験制度改革等が、学生の学修行動や履修行動にもたらす影響を見極めつつ、今後のカリキュラムの検討、授業改善等に取り組むたい。 なお、専門教育科目の授業評価等、部局別のFD活動や自己点検評価活動について、予算上の手当がなされる必要がある。

社会科学部 政治学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	極めて少人数のため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、修士論文・博士論文といった成果で間接的に評価されるべきものと考えられる。
	研究会・講演会・セミナー等	都立大学時代を含め、半世紀以上、毎月（8月・3月を除く）、スタッフ・院生全員が参加する研究会形式の授業「政治学総合演習」を開催することにより、教育・研究水準のさらなる向上に努めている。新任スタッフは、同演習において着任講演として研究報告を行っている。また、定期的にスタッフミーティングを行い、大学院の教育および研究指導に関する意見交換を行い、実質的なFD活動を行っている。これらの活動状況については、総合演習40周年(1995年)、50周年(2005年)の区切りに記念誌を発行し、外部に報告している。
	外部評価等	2005年度に、法学政治学専攻の設置申請に関連して、内部においてスタッフの教員審査を行い、その上で外部委員による評価を受けた。
今後の予定・展望		第三者評価機関による大学機関別認証評価が義務づけられていることに加え、2007年度から大学院FDの実施が求められることから、総合演習等を中心とした自己点検評価・FD活動のさらなる充実化に向けた検討を行う。なお、認証評価の予算化は当然として、その準備作業にかかる経費等に関しても、予算上の措置が必要である。

都市教養学部 経営学系		
取り組みの現状	学生による授業評価等	19年1月に、通年開講・後期開講の専門科目について、学生による授業改善アンケートを実施した。アンケート結果の分析・評価については、2・3月に行なう。各科目の結果は各教員にフィードバックする他、全体としては、科目履修の動機や履修人数と満足度の相関などに注目し、教員の懇談会などでの議論を通じて、今後の改善に活かしていきたい。
	研究会・講演会・セミナー等	近接分野の教員間で、講義のレジュメの交換・相互評価等の取り組みを始めている。また、大学院生の指導体制に関する協議も一部で実施している。
	外部評価等	
今後の予定・展望		本年度後期に実施した授業改善アンケートを起点として、来年度以降、経営学系に相応しいFD活動のあり方について検討を進めながら、適宜カリキュラムに反映させていきたい。

社会科学部 経営学専攻（ビジネススクール）		
取り組みの現状	学生による授業評価等	本年度は、ビジネススクールが開設から3年を経過したことを踏まえ、科目編成の包括的な見直しに取り組んだ。この結果は、19年度以降のカリキュラムに反映される。
	研究会・講演会・セミナー等	
	外部評価等	
今後の予定・展望		19年度から本格的にスタートする新しい科目編成について、教員間の情報交換・学生による評価もまじえながらその内容の向上を図りたい。

都市教養学部 理工学系数理学コース・理工学研究科数理情報科学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) 前後期の2回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを実施した。前期分に関しては、アンケート結果に基づいて「改善案および要望」を作成し、理工学系教授懇談会において話し合った。また、来年度に向けて数学系科目の各クラスの受講生を120名以下にすることを検討している。 (2) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを後期に実施した。数理学コースに関しては、受講生が10人以下の授業と今年度退職予定の教員の担当する科目以外の全ての科目の授業評価アンケートを実施した。集計が終わりしだいその結果をまとめ担当者に報告し、来年度の講義に反映させる予定である。
	研究会・講演会・セミナー等	11月9日に数理情報科学専攻の教員と院生との懇親会を開いた。それがきっかけで、院生が主体となって院生親睦セミナーが発案され、現在までに11月30日と1月25日の2回開催されている。 オフィスアワーの制度の実施、統一的な専攻ホームページの作成、院生による学部生の学習相談 (Math. Clinic) 等を各教員・院生の任意に任せず専攻主導で行った。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。教育・研究全般にわたる年次報告書を隔年で作成し、国内の主要大学数学教室に送っている。
今後の予定・展望	(1) 数学系の理工系基礎教養科目の実施にあたり、1クラスの学生数が120-160人という場合には、学生数を120人以下に減らして円滑な教育を行うことを計画している。毎回の講義内容を厳密に決めたシラバスと自前の教科書を使って、統一的で効果的な授業をするスタイルを来年度以降も続ける。 (2) 来年度は理工学系の学部専門科目の授業アンケートを前後期実施することを計画している。	

都市教養学部 理工学系物理学コース・理工学研究科物理学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	(1) 前後期の二回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを実施した。前期分に関しては、アンケート結果に基づいて「改善案および要望」を作成し、理工学系教授懇談会において話し合った。また、来年度に向けクラス編成を改善し新たに「物理通論」の開講コマ数を増加することにより、多様な学生の学力・希望に柔軟に対応する方針である。 (2) また、学科内でのシラバス内容の統一と再検討を実施した。また、学生の所属する専攻のカリキュラムに細かく対応するため、各専攻の教務委員との懇談会を計画している。 (3) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを後期に実施した。物理学コースに関しては、基本的に全ての科目の授業評価アンケートを実施したが、平成19年1月末の時点ではその結果はまだ集計が終わっていない。
	研究会・講演会・セミナー等	(1) 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業を化学専攻・物理学専攻の共同事業として実施し、このイニシアティブ事業で国際シンポジウムを開催すると共にその中に学生のポスター発表を組み込み、そのプレューを英語で行った。さらに、イニシアティブ事業では、学生の国際会議への参加を積極的に進め、かなりの学生が国外国内の学会に参加して英語で研究発表を行った。 (2) 新入生の高校時において履修してきた知識・学力の現状を正確に把握するため、現場の物理担当高校教員による教員向けのセミナーを開催した。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。
今後の予定・展望	(1) 理工系基礎教養科目の実施にあたり、高校時代に物理の未履修の学生に対する講義のあり方も検討しており、来年度はかなり改善されることを期待している。 (2) 来年度は理工学系の学部専門科目の授業アンケートを前後期実施することを計画している。	

都市教養学部 理工学系化学コース・理工学研究科分子物質化学専攻		
取組みの現状	学生による授業評価等	(1) 前後期の二回にわたり理工系基礎教養科目の授業アンケートを実施した。前期分に関しては、アンケート結果に基づいて「改善案および要望」を作成し、理工学系教授懇談会において話し合った。また、来年度に向けて各クラスの受講生を100名以下にすること、および授業内容を再検討することを計画している。 (2) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケートを後期に実施した。化学コースに関しては、受講生が10人以下の授業と3年生を対象とする学生実験以外の授業科目は全ての科目の授業評価アンケートを実施したが、平成19年1月末の時点ではその結果はまだ集計が終わっていない。
	研究会・講演会・セミナー等	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業を化学専攻・物理学専攻の共同事業として実施し、このイニシアティブ事業で国際シンポジウムを開催すると共にその中に学生のポスター発表を組み込み、そのプレューを英語で行った。さらに、イニシアティブ事業では、学生の国際会議への参加を積極的に進め、かなりの学生が国内外の学会に参加して英語で研究発表を行った。
	外部評価等	外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。
今後の予定・展望		(1) 理工系基礎教養科目の実施にあたり、1クラスの学生数が120-160人という場合には、学生数を100人以下に減らして円滑な教育を行うことを計画している。また、高校時代に物理等の基礎を勉強していない学生に対する講義のあり方も検討しており、来年度はかなり改善されることを期待している。 (2) 来年度は理工学系の学部専門科目の授業アンケートを前後期実施することを計画している。

都市教養学部 理工学系生命科学コース・理工学研究科生命科学学専攻		
取組みの現状	学生による授業評価等	(1) 生命科学のFD活動：かねてより教育効果と学生の意欲を高めることを目的として成績評価法に関する構成員の意識改革に取り組んでいる。前後期とも成績を付ける時期に合わせて、FD委員が成績評価法に関する問題点・改善案等に関するメモを回覧し、生命科学専攻としてのコンセンサス形成を図っている。 (2) 前期の理工系基礎教養科目の授業アンケート：アンケート結果をFD委員が中心となって分析し、その結果を教室会議で公表し、メール回覧し、授業改善を図った。 (3) 理工学系の学部専門科目に関する授業評価アンケート実施（後期）：生命科学コースでは実験、実習以外の科目について授業評価アンケートを実施中。
	研究会・講演会・セミナー等	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業の一環として、院生とスタッフを対象に外部講師によるプレゼンテーション技術に関する講演会を開催した。
	外部評価等	外部評価について：特記事項なし。
今後の予定・展望		(1) (2) の取り組みを今後とも継続する。

都市教養学部 理工学系電気電子工学コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・特別研究の中間報告会及び最終報告会を開催し、学生と教員相互の研究成果の情報交換と評価に力を入れている。 ・学生実験の発表会や特別研究の発表会に全教員が参加して、常に学生からの授業及び実験への要望を聞き、また優れた実験成果には賞を与えている。 ・自主的に学生実験のアンケート調査を実施し、フィードバックを行っている。 ・前後期の二回にわたり理工学系基礎教養科目の授業アンケートを実施した。前期分に関しては、アンケート結果に基づいて「改善案および要望」を作成し、理工学系教授懇談会において話し合った。また、来年度に向けて各クラスを受講生を100名以下にすること、および授業内容を再検討することを計画している。
	研究会・講演会・セミナー等	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次学生に対しフレッシュナー・セミナーを実施し、早い段階で専門的技術や知識に興味を持たせるよう努力している。 ・学部2年生を対象とし、EEI基礎実験発表会を開催し、全教員参加のもとで、成果報告を行っている。 ・学部3年生を対象とした、プロジェクト実験発表会を開催し、全教員参加のもとで、成果報告を行っている。 ・「国際的な情報発信」プロジェクトを進めており、これに添って、学生の国際会議への参加を積極的に進め、かなりの学生が国外国内の学会に参加して、英語で研究発表を行った。
	外部評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用にあたって、外部評価委員を加えるなど評価の客観性と中立性を確保している。 ・教員の紹介、研究業績、学外活動及び研究内容を紹介するHPを公開し、外部評価への情報提供を進めている。 ・外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、外国人研究者の特別講演会を実施するなど、学生の国際的視野の拡大に努める予定である。 ・推薦入学にあたり、関連高校に教員を派遣し、趣旨説明及び勧誘をさらに進める。 ・平成18年度の学科年次計画において、コースに係わるFD関連の推進目標を立て実施計画等を立案する予定である。 ・理工学系基礎教養科目の実施にあたり、1クラスの学生数が100を越える場合には、学生数を100人以下に減らして円滑な教育を行うことを計画している。また、高校時代に物理等の基礎を勉強していない学生に対する講義のあり方も検討しており、来年度はかなり改善されることを期待している。 ・来年度は理工学系の学部専門科目の授業アンケートを前後期実施することを計画している。 	

都市教養学部 理工学系・電気電子工学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の中間報告会及び最終報告会を開催し、相互の研究成果の情報交換に力を入れている。 ・各研究室毎にプロジェクト成果報告会を開催し、全大学院生参加のもとで、成果報告を行い、研究推進及び外部発表の要望を聴取している。
	研究会・講演会・セミナー等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を、内外のセミナー、研修会、講習会、講演会に積極的に参加させている。 ・外国人研究者の特別講演会を実施するなど、学生の国際的視野の拡大に努めている。 ・多くの学生を国際会議に参加させ論文発表を行うなど、国際化に努めている。 ・外国人研究者を受入、大学院生の国際性と学問領域の拡大に務めている。
	外部評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用にあたって、外部評価委員を加えるなど評価の客観性と中立性を確保している。 ・教員の紹介、研究業績、学外活動及び研究内容を紹介するHPを公開し、外部評価への情報提供を進めている。 ・本専攻でこれまで取り組んできた授業評価及び学会成果をまとめ、この分析に基づき大学院のFD関連活動の改善を図り、外部評価に資する情報を提供する。
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度の学科年次計画において、大学院に係わるFD関連の推進目標を立て実施計画等を立案する予定である。 	

都市教養学部 理工学系機械工学コース・理工学研究科機械工学専攻

取り組みの現状	学生による授業評価等	<p>(1) 前後期の理工系基礎教養科目の授業アンケートを実施した。当コース担当分の前期分に関しては、授業内容についてはおおむね好評であった。</p> <p>(2) しかし昨年後期にすでに現われていたが、受講者のコース間の基礎学力の差から成績に顕著な差が生じてしまった。これをふまえ、今年度、元来1クラスだった材料の力学第一の他コース向けを分割して2クラスにし、講義内容も変えた。ただ、工業の力学、機械の力学、2年生対象の材料の力学第二に関してはスタッフ数が足りずに他コース向けは従来通り1クラスで、学生の理解度、満足度は（まだ未集計だが）懸念される。講義者にとっても前提の違う学生に対するクラス運営はむずかしく、戸惑っている状態である。</p>
	研究会・講演会・セミナー等	<p>大学院専攻は都立大機械と科技大機械との合体がなされた初年度で、その統合処理に多くのエネルギーが割かれ、また、所属教員も2キャンパスに別れたままであったので、FDのための取り組みを組織的に行うまでには至っていない。学部では、「学生フォーミュラー」等の学生の自主的研究活動を支援し、奨励するために施設の援助、助言などを行っている。</p>
	外部評価等	<p>外部評価に関しては、平成18年度は自己点検・評価委員会の行った業務実績報告書の作成に携わった。また、学校教育法上の評価に関しては、評価を受ける準備を進めている段階である。</p>
今後の予定・展望	<p>「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業を数理情報科学専攻・電気電子工学専攻との共同事業として計画当中である。このイニシアティブ事業では、大学院教育における工学と数学の協同と融合をめざして授業科目新設や三専攻協同のゼミナール等を行い、数理系の学生にはより実用性の高い問題への興味を誘い、工学系学生には個別課題の基礎をより正確に深める機会を提供する。</p>	

都市環境学部 地理環境コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	地理環境コースに関わるすべての講義科目について（非常勤講師が担当するものは除く）、学生による授業評価を実施してきた。学生の授業評価に基づいて、授業の良い点と悪い点を検討し、改善の方向性を示した改善報告書の提出をコースとして義務づけている（JABEEの外部評価と関連して）。したがって、学生の授業評価と個々の教員の授業改善報告書により、FD活動に積極的に取り組んでいるといえる。
	研究会・講演会・セミナー等	研究会・講演会・FDセミナーに積極的に参加している。参加証明書を受け取ることにより、教員の参加状況を把握するとともに、参加証明書はFD活動の記録としても役立っている。今後の課題として、研究会・講演会・セミナーの知見を、地理環境コースのFD活動にどのように活かしていくかが重要になる。
	外部評価等	JABEEに関連して外部委員による監査やチェックを受けている。その際、学生の授業評価だけでなく、シラバスや配布資料から授業の内容や方法、形式など詳細に検討されており、質の高いFD活動が行われていると思われる。
今後の予定・展望	学生の授業評価や授業改善報告書、あるいは講演会・セミナーなどへの参加や外部評価をどのように実際の授業改善に活かしていくのかを見直す必要がある。FD活動のシステムはできているが、その運用はまだ十分といえない。	

都市環境学部 都市基盤環境コース		
取り組みの現状	学生による授業評価等	都市基盤環境コース（対応する都立大学工学部土木工学科も含む）が提供する、前期及び後期の学部専門講義科目について、学生による授業評価アンケートを実施した。合わせて、大学院前期課程の講義科目についてもアンケートを実施した。なお、実験科目、演習科目、非常勤講師担当科目、及び受講者の少ない科目はアンケート対象から除いている。アンケートは各科目の担当教員に対しても実施し、アンケート結果および自由記述の内容を各担当教員に配布し、授業改善に努めている。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に参加し、授業改善のための情報収集を行っている。
	外部評価等	東京都土木技術センターとの連携協定に従って、メガロポリステクニカルセミナー（東京都の土木分野における課題と取組みに関して土木技術センターの研究員が講義）を3年次以上の学生、大学院生及び教員の参加のもと年2回実施しており、セミナー終了後、学生にアンケートを行い、関心のあるテーマ、講演を希望するテーマ等を調査し、次回以降のテーマ選定と他の通常の授業へ反映させている。また、土木技術センター研究員との意見交換を通して、外部から見た授業の改善点をチェックしている。
今後の予定・展望	学部専門科目及び大学院前期課程科目を対象とした、学生ならびに教員による授業評価アンケートを継続して実施し、更なる授業改善に努める予定である。 なお、特に、大学院の科目では履修学生が少ない科目もあり、現状では、適切な評価がされにくいこと、一方で少人数のため学生とのコミュニケーションが取りやすく学生の状況を適宜把握していることが多いため、それらの科目では授業評価アンケートを実施していない。今後も、教員が積極的に学生とのコミュニケーションを図り、改善に努めていくようにする必要がある。	

都市環境学部 材料化学コース・材料化学専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の前期及び後期、コース専門科目・大学院修士課程特論について、学部学生、大学院生及び教員による相互授業評価アンケートを実施した。 ・学生・院生の運営による特別研究・修士論文の発表会を開催し、学生・院生・教員間での情報交換、評価に努めるとともに、優れた、印象深い発表に対し賞を与えた。 ・関連分野の研究に取り組む研究室による合同報告会を実施し、研究推進に向け議論を重ねた。 ・コース学部学生を対象に研究室公開を実施し、研究の紹介・周知と意見交換を行った。
	研究会・講演会・セミナー等	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の著名な研究者を招き、大学院生・教員の参加のもと専攻独自の講演会「材化コロキウム」を開催（当該年度はこれまでに第252～264回を行う）し、学術交流と国際化を進めた。 ・学部1年次学生を対象とする授業「材化基礎ゼミ」の調査・研究成果報告会を開催し、相互理解と専門教育実施にあたっての課題の把握に努めた。
	外部評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員・スタッフの紹介、研究内容・研究業績・学内外での活動状況などを紹介するHPを公開し、外部評価実施に向けての情報提供をすすめた。 ・一部授業を「特別公開講義」として広く一般に開放し、最先端の研究成果などを平易に紹介するとともに、受講学生及び一般参加者と意見交換を行った。
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学生・大学院生を対象とするコース専門科目、大学院修士課程特論についての学生・教員相互による授業評価アンケートを引き続き実施する予定である。 ・平成19年度の年次計画において、学部ならびに大学院に係るFD関連の活動企画を立案し、実施する予定である。 	

システムデザイン学部・専攻		
取り組みの現状	学生による授業評価等	来年度に本格的な評価を行うことを目標に、質問事項などを検討した。情報通信システムコースと経営システムコースでは来年度に先立ちテストトライアルを行った。共通基礎でのSE質問事項を学部学習に置き換えてSE項目を作成したものの、質問の設定の仕方を工夫しないと統計が取りにくいことなども判明した。
	研究会・講演会・セミナー等	
	外部評価等	
今後の予定・展望		本年度中に来年度のSE資料を学部教授会で承認していただく予定。 FDセミナーのビデオを教授たちに見てもらおう催しを1月初めに計画中。

健康福祉学部		
取り組みの現状	学生による授業評価等	健康福祉学部では学生による授業評価は、後期授業に対して実施することになりました。期間は平成19年1月から3月までの期間。対象科目は授業科目が74、臨床実習科目が20です。集計・分析結果は授業科目が2月中、臨床実習科目が3月中に終了する予定であります。
	研究会・講演会・セミナー等	ビデオ講演会を4回開催した。その内容は、「現代社会と教養教育」村上陽一郎先生（国際基督教大学大学院教授）のビデオ講演を平成19年1月9日（火）午前10：30～ 第1回、同日午後1：30～ 第2回、平成19年1月10日（水）午前10：30～ 第3回、同日午後1：30～ 第4回を開催した。
	外部評価等	特に実施しておりません。
今後の予定・展望		平成18年度中に教員による授業評価を実施する。